

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0171700271		
法人名	せたな町		
事業所名	グループホーム あさなぎ		
所在地	久遠郡せたな町瀬棚区本町792番地2 (電話) 0137-87-2510		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成20年2月8日	評価確定日	平成20年2月18日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

せたな町は檜山の最北端に位置し日本海に面した漁業の町である。日々気象情報に敏感な土地柄で、「今朝も波静かでおだやかな海」という意味で「あさなぎ」と命名された。ホームは住宅街に位置し、近くには、役場や保健センター、社会福祉協議会等がある。事業主体が、せたな町で、業務受託事業者が運営に携わっているのが特徴である。管理者と職員は、入居者が地域の一員として生活することを理念とし、住み慣れた地域の中で安心して穏やかに暮らせるように、利用者の尊厳を大切にして、家族同様の暮らしを支援している。

【情報提供票より】 (19年 12月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 2 月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤 7人, 非常勤 3人,	常勤換算 5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 5,000円
敷金	有 (円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	0 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要 (1月 21日現在)

利用者人数	8名	男性	名	女性	8名
要介護1	5	要介護2	3		
要介護3			要介護4		
要介護5			要支援2		
年齢	平均 86.6歳	最低 79歳	最高 99歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	瀬棚国民健康保険医科診療所 瀬棚国民健康保険歯科診療所		
---------	-----------------------------	--	--

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された、季節感がみられなかったという改善課題は、全体会議で検討し、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に自己評価の提出を義務化し、個々の思い、悩み、反省点を把握し、ホーム全体で質の向上に努力している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	事業所は、運営推進会議規定の原案を作成しているが町側との調整のため実現に至っていないので、早急に実施されることが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関ロビーに苦情、相談の記入用紙を置いたり、面会時や家族交流会の時に話を聞くように努めているが、運営に反映されるまでの意見はないのが、現状である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目 外部3)
重点項目④	生活支援ハウス、ボランティアセンターふらっと等利用者は地域活動に積極的に参加して、手芸、料理、軽体操等地域の住民と一緒にしている。ホームが孤立することのないように事業所は地域との交流を大切に支援している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、地域密着型として現状にあった理念を作成し、提示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝のミーティングで理念を共有しノートに記録をとり、月1回の全体会議の中で再確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアセンターふらっと、生活支援ハウス等、社会福祉協議会主催の地域活動に積極的に参加し、料理、工作、軽体操等地域の方々との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、さらにホーム独自として全職員に自己評価の提出を義務化しホーム全体として改善と質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームとしては、運営推進会議規程の原案を作成し、立ち上げを促しているが、事業主である町側の意向で実現に至っていない。	○	外部の人々の目を通して、ホームとしての取り組みや内容を知ってもらおうと共に、地域の意見や要望、支援を得るためには必要な会議なので早急の実現されることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	設置主体が町であり、町の管理下に置いて運営されているので、サービスの質の向上については共有されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りを3ヶ月に1回発行しており、年2回家族交流会を開催して利用者の暮らしを伝えている。家族から預かった金額は預かり金額書に捺印を頂き、出納帳に領収書を添えて残金の確認を家族がしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入り口に苦情、相談を記入する用紙を置いたり、面会時や家族交流会の時に話を伺う等意見、苦情を表せる雰囲気作りをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員の異動による利用者のダメージは理解しているが、止むを得ない場合は引継ぎに1ヶ月の期間を取っている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は事業所外の研修会に参加し、全体会議の中で、発表し全職員が、閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の中で交流はあるが、形式的な交流になりがちである。	○	他の同業施設へのスタッフ研修が計画されているので、早期の実行を期待する。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と利用者が安心してサービス利用できるように事業所を見学してもらったり、生活が安定するのを見極めてから、家族と相談してサービスを開始している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を把握し、100歳になられた方で野菜作りの好きな方や調理の好きな方等、人生の先輩として共に支えあう関係づくりが、写真集等で確認された。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、本人の意向を大切にし、意思疎通が困難な方については、ミーティングの時に全職員で話し合ったり、家族からの情報を得るよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活援助計画書で、本人、家族の意向を克明に聞き取り計画を立てている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しを原則としているが、本人の状態に合わせて、随時見直しを行っている。今後、センター方式を取り入れる計画をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者はホーム内だけの生活をする事無く、社協のボランティアセンター、生活支援ハウス等に積極的に参加して地域住民との交流をしており、職員は柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族、本人と相談して、かかりつけ医に月1回定期的に受診する支援をしている。		かかりつけ医の診療所は、近くにあるが夜8時以降は無医師になるので、夜間体制については、救急車を利用して、隣町の医療機関を利用する事を家族に話し了解をえている。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴う対応について、家族の意向を確認したり共有は図っていない。	○	夜間、祝日は無医師の状況にある地域性のため、ターミナルケアについては事業所として苦慮している。家族が安心と納得が得られるよう町側の指針に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居の際、個人情報使用同意書に家族から捺印をもらい、必要最小限の範囲以外は全職員がプライバシーを損なわない対応を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、利用者の希望に沿って散歩、買い物、話し相手等柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で収穫した野菜を食材にしたり、一緒に調理、盛り付けする等和気あいあいの食事準備風景は写真集にても確認。本人が使った食器は本人が洗う、時間はかかるが、職員はしっかりと見守っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者は入浴が好きな方が多く、職員は希望に合わせて支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の得意分野を把握していて、それを活かせるように支援している。野菜作りの大好きな方は100歳で、声が聞こえてくるような笑顔は、写真集でも確認できる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は、戸外に出ることを望む利用者が多く、買い物、散歩、ドライブ等日常的に外出の支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることなく、出入りは自由であるが、夜間は、防犯のためかけている。隣家が警察で緊急時のために、直通の非常ベルを設置し安全対策をとっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力で全職員と利用者が、避難訓練、消火器の使い方等の訓練を行っている。その様子は写真集でも確認できる。		
む					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量は一日1000-1300mlを目安に職員は意識して支援し、克明に記録している。食事は新鮮な食材の提供を心がけ、町の管理栄養士の指導のもと献立を作成している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関戸は大きくロビーも広々として、明るく開放的な共用空間で、利用者はソファ、畳敷きの居場所などを確保している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットや仏壇、タンスなど持込は自由で、本人と家族の意向で、居心地のよい居室となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。